

浦幌町立博物館だより

令和2(2020)年12月号

編集・発行：浦幌町立博物館 ☎089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16-1 / ☎015-576-2009 / ✉museum@urahoro.jp

外来種について正しく知ろう



駆除のために捕獲されるウチダザリガニ



オオモンシロチョウ(左)とモンシロチョウ(右)



平和塔周辺に群生するハイコウリンタンポポ

実は外来種の多い浦幌の自然

浦幌の自然を観察していると、外来種とたくさん出会います。

街中にセイヨウタンポポやシロツメクサが咲くのは、もはや当たり前。ニジマスの泳ぐ川の底には、ウチダザリガニがたくさん潜み、土手をミンクが駆り抜けていきます。近年、オオモンシロチョウも再び増えてきたようです。海外からばかりではありません。子ども達に人気のカブトムシは、本来は北海道に生息しない国内外来種です。

原因をつくったのは人間

ウチダザリガニもニジマスも、食用のために外国から持ち込んだ生物です。セイヨウタンポポは野菜として、シロツメクサは、もともとは荷物の詰め物でしたが、いまは重要な牧草として導入されたものが、野生化しました。ハイコウリンタンポポは鑑賞園芸用に輸入したものが逸出。アライグマやカブトムシは、ペットとして輸入した個体が野生に放されたのが原因です。オオモンシロチョウは、まだよくわかっていません。

外来種問題の理解のために

外来生物の定着は、もたらした野生生物へ影響を及ぼします。直接的には、捕食や生息地の競合、病気の伝播など。やがては、地域の生態系や生物多様性のバランスを崩す、大きな原因になると考えられています。

人間が原因で持ち込まれ、一方的に排除される外来生物には、本来、罪はありません。悲劇を繰り返さないために私たちに出来ることは何でしょうか？

(浦幌町立博物館 学芸員 持田 誠)

「コロナな世相」を伝える

こんな資料を集めています！

困窮する学生たち



北海道大学の同窓会が、後輩達へのカンパ(募金)を呼び掛けるチラシ。

アルバイトが無くなったり、親元の生計が苦しくなって仕送りが途絶えたりして、大学生の生活が困窮しています。

(浦幌町立博物館所蔵)

Pick up BOOK [注目の本]

図書館から

『発注いただきました!』



朝井リョウ(著) 集英社刊
2020年3月10日 発行
四六判 並製 408頁

この作品は、様々な企業のタイアップや他の作品とコラボして書かれた20の小説とエッセイを収録したものです。ただの広告小説だけでなく、依頼主からの著者への注文内容や執筆後の著者の感想も記されており、広告小説の裏話も楽しめます。

私のおすすめは、たばこが作中に登場する、「人生の相棒」をテーマにした小説です。

(浦幌町立図書館 司書 山崎菜摘)

【図書館での配架場所】

日本の小説コーナー

分類記号→ 913.67